

2. 水稲新品種‘岡山赤糯61号’の育成（技術）			
[要約] 岡山県南部に適する、良質、良食味で晩生の赤米糯品種 <u>岡山赤糯61号</u> を交雑育種法によって育成したので、 <u>品種登録</u> を申請する。			
研究室名	作物研究室	連絡先	0869-55-0275

[背景・ねらい]

岡山県では、赤米が地域特産物として注目され産地化が試みられているが、赤米在来品種は倒伏や脱粒しやすく、粳性で食味も劣る。そこで、糯性を導入し、これらの欠点を改良した、倒伏に強く、良質、良食味な赤米品種の育成が望まれている。

[成果の概要・特徴]

1. ‘岡山赤糯61号’は、昭和62年に粳性の赤米品種‘総社赤米’を母、‘サイワイモチ’を父として交配し、集団育種法で育成した。平成7年から奨励品種決定調査に供試し、生産力と特性を検討してきた（表1）。
2. 出穂期、成熟期はヤシロモチより12日程度遅い、晩生の糯種であった。
3. 稈長は、ヤシロモチより3cm程度短く、耐倒伏性は中程度であった（写真1）。
4. 穂数は、ヤシロモチよりやや多く、草型は偏穂数型に属した。
5. いもち病真性抵抗性遺伝子型は‘*Pita2*’を持つと推定され、葉いもちにはヤシロモチより強く、縞葉枯病には罹病性であった。
6. 収量性は、ヤシロモチより劣るが、赤米品種としては高かった。
7. 玄米は、ヤシロモチより小粒で、色は赤褐色であった（写真2）。
8. 食味は、ヤシロモチ並で粘りが強かった。
9. 出穂期の芒は赤色で長く、観賞用にも適し、脱粒性は難であった。

[成果の活用面・留意点]

1. 普及地帯は、南部の標高100m以下の平坦地域で、紅白もち、赤飯、菓子及び観賞用等の地域特産物として普及を図る。
2. 過度の多肥栽培では倒伏し、品質が低下するので、施肥量はヤシロモチ並とし、玄米の着色を良くするため、できるだけ作期を早める。
3. 縞葉枯病には弱いので、薬剤を苗箱施用する。
4. ヤシロモチより穂発芽しやすいので、収穫は適期に行う。
5. 花粉が飛散して雑種を生じる恐れがあるので、出穂期に近い品種を周辺で栽培しない。

[具体的データ]

表1 岡山赤糯61号の特性一覧

調査地	岡山県農業総合センター農業試験場	
調査年次	平成7～10年	
播種期(月.日)	5.21	
移植期(月.日)	6.20	
品種名	岡山赤糯61号	ヤシロモチ
早晚性	晩生の晩	中生の中
草型	偏穂数型	中間型
出穂期(月.日)	9.09	8.28
成熟期(月.日)	11.01	10.11
稈長(cm)	95	98
穂長(cm)	19.6	20.3
穂数(本/m ²)	324	290
芒の多少・長短	多・長	中・中
ふ先色	赤褐	赤褐
脱粒性	難	難
耐倒伏性	中	弱
穂発芽性	易	やや易
耐病性	葉いもち	中
	穂いもち	強
白葉枯病	やや弱	中
	罹病性	罹病性
玄米重(kg/a)	48.7	61.3
収量比率(%)	80	100
玄米千粒重(g)	22.8	24.9
玄米品質	4.9	4.9
食味	上の下	上の下

注) 玄米品質は1(上上)～9(下下)の9段階評価



写真1 草姿

総社赤米 (左)
岡山赤糯61号 (中)
サイワイモチ (右)



写真2 玄米

総社赤米 (左)
岡山赤糯61号 (中)
サイワイモチ (右)

[その他]

試験研究課題・事業名：交雑育種法による良質強稈多収品種の育成
水稲奨励品種決定調査

予算区分：県単、国庫

研究期間：昭和62～平成14年度

関連情報等：平成12年度試験研究主要成果「水稲の有望な赤米糯系統‘岡山赤糯61号’の特性」